

2009 年度第 3 回連携推進委員会 議題の提案（加筆版）

1. 提案者名 : 片山信彦 (特活) 国際協力 NGO センター (JANIC) 副理事長

2. 議題案名 : ODA の見直し

3. 議題の背景 :

ODA は国際協力の重要な手段であるが、その予算は平成 9 年をピークに減少の一途をたどり、GNI 比 0.7% には遠く及ばないのが現状である。また、「選択と集中」「量から質へ」に代表されるように ODA の質が問われている。ODA 有識者会議からは ODA の戦略・政策立案の体制や、事業実施に関わる幾つかの提言が出された。その様な中、昨年は新 JICA が誕生し、無償、有償、技術協力の有機的な統合への取り組みが進められている。また、本年は ODA の中期政策を見直す時期でもあり、岡田外務大臣はその 300 日構想の中で、ODA を見直す考えであると伝え聞く。

ODA の見直しは NGO、市民社会にとっても大変重要な課題である。それは、ODA のあり方が日本の国際協力全体に大きな影響を及ぼすだけでなく、NGO との連携のあり方にも影響することである。

4. 議題論点 :

以上の理由から以下の項目について先ずは質疑応答の時間を確保いただき、今回の見直し過程に NGO が参加する可能性について議論したい。

- ① ODA の見直しに関する外務省の現状
- ② 見直し項目 (何を見直すのか: 理念、目的、政策、実施体制、基本法?)
- ③ 見直しの方法 (見直し過程に NGO の意見を反映させるのは可能かを含めて、どのようにして見直すのか:)
- ④ どのような体制で行うのか (NGO が参加する可能性はあるか)
- ⑤ どのようなタイムスケジュールで行うのか

5. 進め方

(1) 外務省から上記の項目にそって、ODA 改革の現状を報告

ODA 改革の担当課からご報告をお願いします。(開発協力総括課 or 政策課 or 企画室?)

(2) 質疑応答・意見交換

今後の連携推進委員会において、本件をどのようにフォローアップして議論いくのかを確認する。NGO 側として現時点で想定している検討事項は項目 6 のとおり。

6. 連携推進委員会における本議題のフォローアップについて

以下の事項について、今後も連携推進委員会で議題として討議することを要望する。

(1) ODA 改革において、NGO と ODA の連携についてどのような観点から進めることを検討しているか。

(検討事項例)

a) ODA の主体的な担い手としての NGO (⇒NGO が参入できるような ODA 本体事業改革、門戸開放)

b) ODA への国民参加促進の担い手としての NGO (⇒NGO 連携無償、草の根技術協力など NGO 向けスキームの改革、NGO の基盤強化のための活動環境整備支援事業の改革)

c) 援助政策の立案の担い手としての NGO (⇒洞爺湖サミット、TICAD、MDGs 関連政策 (⇒GII/IDI 懇談会、JNNE など) における NGO の役割の評価と強化。特に活動環境整備支援事業の改革の文脈と連携して)

(2) NGO と政府間の人事交流の拡大について

例：NGO と ODA 担当部局（外務省国際協力局＋地球規模課題審議官組織）など

以上